

参考添付:活動内容が分かる写真

(1~4枚目は、中間報告書添付済みの写真)



2012/3/15 ダラサラマ・グループ 作付計画の研修も、砂の地面に描けば材料はいらない



2012/03/03 チャンデ ソマ村 自力で完成させた灌漑施設、丸太を切り抜いて水の通り道を作成



2011/12/01 チャンデ ソマ村 雨季を前にしてアップランド作付計画法について老若男女が研修



2011/12/14 ジェルミア モヨ村 伝達農家が指導してのアップランド作付計画法の研修(講師:左端)



2011/12/21 チカガワ方面の伝達農家委員会メンバーが自力でムバクレ方面にフィールド視察に訪れた



2012/04/21 ガゾルウェ・ゾーン委員会会合 活発な動きを見せる委員会はメンバー間の風通りも良い



2012/03/07 自分のトマトを買い付けに来た仲買人から逆に依頼を受けてルベン・ピリ・グループの伝達農家キングスレイ・ピリさんが街中の畑で研修を実施



2012/04/04 マーケット研修事後ディスカッション 実際に市場で見聞きしてきたことを基にグループ毎に作付カレンダーを作成してみる研修参加者



2012/03/06 ガジョウオラ・グループ プロジェクトの話聞きつけた他地域からの訪問者に身体を使った株間採寸方法を伝授するレナード・バンダさん



2012/03/06 ガジョウオラ・グループ ノートを開き自身の作付カレンダーについて説明するエキスパート・バンダさんと熱心にメモをとる訪問者



2012/01/26 ティベ・オネレホ・グループ プロジェクト視察に訪れた大使館職員を前にデモンストレーションを行いながらニンニクの植付法を説明するメンバー達



2012/02/13 第5回ワーキング・グループ 県農業事業所と農業普及所のスタッフを前にプロジェクト進捗状況を説明する丹羽代表



2012/01/06 JOCA 事務所 近くまで来た折に伝達農家としての活動やグループの現況などを報告しに寄ってくれる農家達が増えてきた



2011/12/08 リンビカニ・グループ ラジオ・プログラム用音声の収録風景。声に出すことで自分のグループの状況を再認識するきっかけにもなる



2012/04/13 カタウオンダ・グループ 灌漑施設を使った乾季ニンニク栽培に向けて下準備が進むエリグステヤの圃場さん



2012/04/27 カジヨウオラ・グループ 列ごとに作付をずらし教えられた技術を忠実に再現しながらニンニク栽培に力を入れるレナード・バンダさん



2012/02/03 カノ・グループ 乾季の作付に向けて種となる大玉のニンニクを選定していくメンバーは地味ながらも女性のみで着実に活動を続けている



2011/12/08 ジャント・グループ 研修を通じてメンバーそれぞれが作成した作付カレンダー。作成後にフォローしていけるかどうかの方が更なるカギとなる



2012/03/28 カチエ・グループ 個人的に記録を付けている農家として非常に丁寧な出納帳を説明するモデスタ ソさんは養鶏(卵)からの収入も多い



2012/02/06 サケヨ・グループ メンバー若干1名ながらも活動を続けるサケヨ氏は今年も JOCA から得た技術の中でも得意とするキャベツ栽培を始めた



2011/11/16 リンビカニ・グループ 新規作物導入を積極的に試みる女性メンバー達がキュウリ栽培に挑戦するも病害虫にやられ初回の実りは無かった



2012/03/27 リンビカニ・グループ 2年前研修に訪れた農家から買った1株のイチゴ苗を地道に増やし続けようやく作付面積を拡大するに至った



2012/01/16 マオレ・グループ 既に80歳近いと推定されるグループ最年長のダイバーシ モヨお婆ちゃんもササガワ方式を実践し現役で農業を楽しんでいる



2012/04/13 カダウオンダ・グループ 『皆で挑戦して沢山の技術を学び自分の畑で実践する、ここは私達にとって教室』というカダウオンダのグループ圃場



2012/06/21 ガジョウオラ・グループ 政府職員と地元 NGO を招待してのフィールド視察では圃場を見学した参加者と農民で活発な意見交換がなされた



2012/08/01 テイコトウエ・グループ(新規エリア、マニュアル・プレテスト時)以前は後ろで見ているだけだった女性達が自発的に前に出てくるようになった



2012/08/17 ムジンバ県農業事業所 短期専門家を迎えて行われたマニュアル改訂版策定作業に関する話し合いは事業所スタッフも主体的に発言



2012/08/31 カチレ・グループ 長期保存を可能にするためにニンニクを干す光景は対象地域内では一般的なものになった



2012/09/04 家畜執行委員会 受益グループ増と共に拡大する委員会。第3フェーズでは JOCA 引上げを見越した受益グループ選定を自ら決定した



2012/09/10 テイビオネレポ・グループ ニンニク生産グループの先陣を切って、収穫量が牛舎単位となる農家が続出した



2012/09/13 ジャント・グループ ももとはは栽培に失敗した隣グループから栽培法を教わったキュウリで初の収穫に漕ぎつけた、売上も上場であった



2012/09/19 リンビカニ・グループ 今や他グループからも苗の販売依頼されているイチゴ栽培の先駆者。繊細な作物のため輸送方法等に工夫が必要だ



2012/09/20 テレオネレホ・グループ 女性伝達農家の代表格エレン グワイさんが、作物販売等から得た現金収入でついに念願の牛を購入した



2012/10/11 チャンデ ソマ・グループ 伝達農家として指導しに来た傍ら果樹苗を観察するガジョウオラのアン チルワさん、良い技術は徹底的に学ぶ主義



2012/10/12 ガジョウオラ・グループ グループで話し合い、現金収入源としてタマネギ生産を拡大した。販売価格が上がるまでは共同貯蔵庫に保管する



2012/10/18 チャホンゴレラ・グループ フィールドビジットで習った接木を実践する農家。地道ながら果樹栽培の可能性を自ら切り開いていくコツコツ派だ

ザンビア・スタディーツアー 2012/07/14-21



ザンビア農業省スタッフより RESCAP に関する説明を受ける。マラウイ側も JOCA スタッフおよび農家代表がプロジェクトや活動の説明を行った。



ザンビア農家のキャベツ圃場見学。マラウイからの参加農家は終始熱心にメモをとっていた。自分達の常識の外に触れ、新しい刺激を受けた。



ザンビア農家からの活動説明を真剣な眼差しで聞くムズ ADD プログラムマネージャー:アグネス・モヨさん。JOCA への理解が最も深い政府職員の1人。



ザンビア、マラウイ両農家による意見交換会。お互いのアイデアを共有することで自分たちの活動の幅を広げていく。



JICA・RESCAP 奈良部専門家よりキノコ栽培の説明を受ける参加者。自分達がムジンバに持ち帰りで実践できる技術はないか、みな真剣である。



養蜂作業場にて、必要な資材の説明を受けた参加者。キノコ栽培と同様に挑戦意欲を掻き立てられる技術を入念に吸収しようとしていた。

プロジェクト引渡し式典 2012/10/30



プロジェクトの歴史や成果を紹介するパネル展示場にて参加者たちへ伝達農家の活動を説明するロゼンダワンダワさん。参加者も興味津々である。



作物や加工品の展示場で農民に質問を投げかける大臣。初めて見るホシモや特大サイズのニンニク、タマネギに関心を示されていた。



大臣始め来賓が目を見張った代表農家による寸劇の披露。身近なものを使って表現した劇のテーマは「技術が伝達していく仕組み」。



TA カンピング・シバンデのスピーチ。自身の母も対象グループメンバーという立場からプロジェクトへの理解も深く、農家の活動に称賛を贈った。



大臣から表彰を受けるビューティー・カニャソ。グループがまとまるために日々思索を続ける傍ら、周辺グループへの伝達農家活動も地道に続けた。



大臣、日本大使館、他来賓客、JOCA 会長らと農家たちによる集合写真。農家全員を載せることは出来ないが式典の成功は皆のものである。